

# 紫明小学校

## 学校評価 特別号

京都市立紫明小学校  
校長 林 孝浩  
平成 29 年 3 月 15 日

TEL: 451-2156 FAX: 431-5811  
<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/shimeis/>

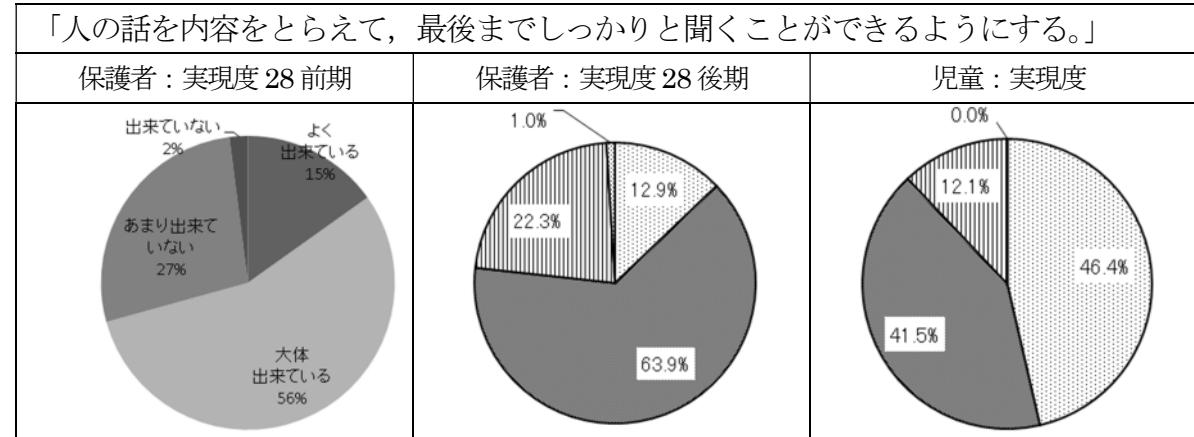


## 学校評価のアンケートにご協力有り難うございました。

厳しい寒さもようやくおさまり、暖かい春がすぐそこまで近づいてきたことが感じられるようになつてまいりました。日頃は本校教育の推進に、温かいご支援・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、後期の学校の取組を通して、児童の姿や意識がどのような変容が見られたか、2月上旬に保護者の皆様に、後期学校評価のアンケートを実施させていただき、それに合わせて教職員も同じ項目で自己評価を実施し、児童にも学校生活の振り返りアンケートを実施しました。お忙しい中ご協力いただき本当にありがとうございました。ご回答いただいた全ての項目について公表したいと考えておりますが、多くの項目があり、グラフを印刷したものも見づらくなりますので、この紙面では特にお知らせしたいことを取り上げ、全ての集計結果につきましては、紫明小学校ホームページでご覧いただけるようにします。

今回のアンケート結果では、前期に比べ、次に挙げる項目などで「よく出来ている」「大体出来ている」の回答が増えています。



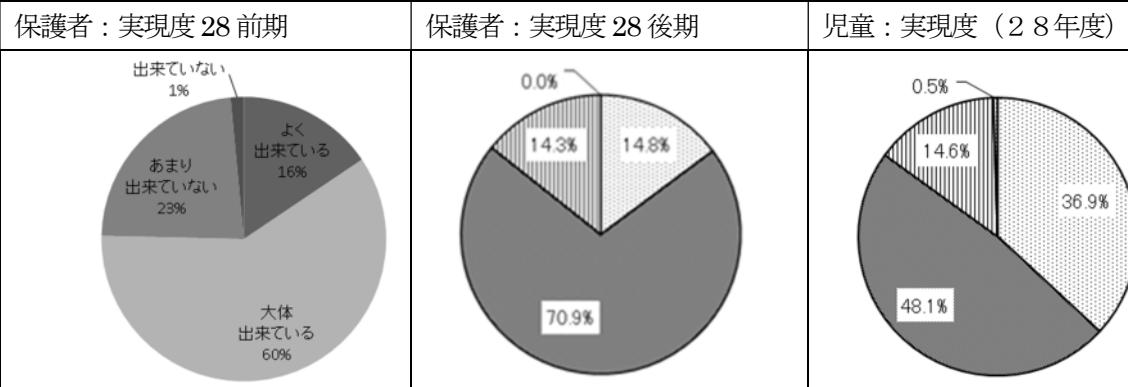
年間6回の紫明タイムには、発表学年を中心に多くの保護者の皆様にも参観にお越しいただき、各学年の作文発表とともに司会進行をする様子や、聞いていた他の学年の児童が質問や感想を出し、発表者とやり取りするようすを見ていだいて、「よい取組だ、聞く力や姿勢が育っている。」というようなご感想をお聞きしています。

また、これは紫明タイムだけではなく、日々の国語科をはじめとする各教科の学習での「話す・聞く」の指導や、朝の会・帰りの会での日直のスピーチとそれに対する質問や感想のやり取りなど、日々の積み重ねの結果だと考えられます。

今後も、教職員が「一人一人の児童の思いをしっかりと受け止めつつ、話を最後まで聞く」こと

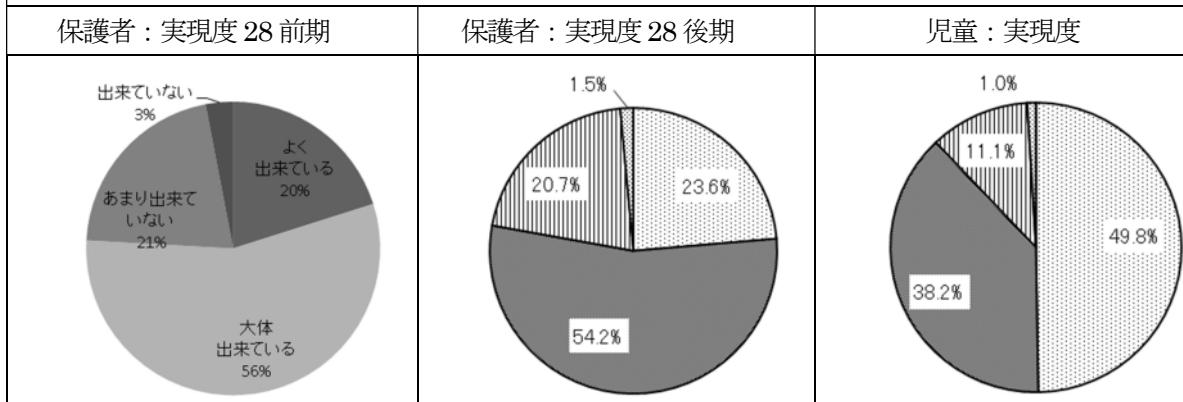
を大切にし、全ての児童が「人の話の内容をとらえて、最後までしっかりと聞くことができるようになる」とともに、「お互いの思いや考えを大切にしながら、話し合いや伝え合いができる」ことをめざして取組を続けていきたいと思います。

自分でしっかりと考えて正しく判断し、よいと思う行動ができるようになります。



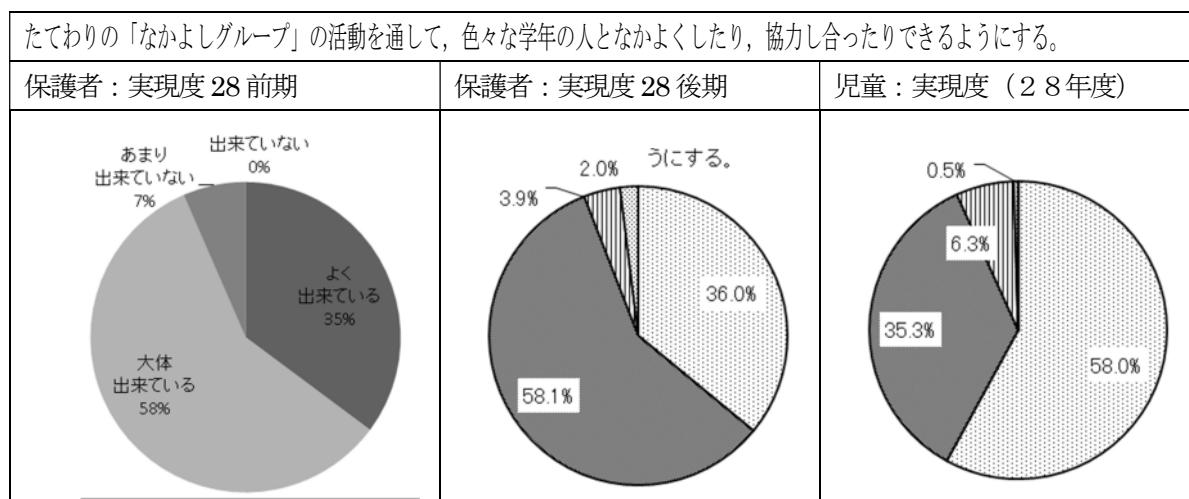
学校目標や、特に自分達で考えて決めた学年・学級目標をいつも意識し、機会をとらえて「紫明校のやくそく」を確認したり、CSS の毎月のめあて（キラキラ目標）などをきっかけに、自分の生活を振り返ることを呼び掛けたりしてきた結果、全体として決まりや約束の意味や大切さを理解し、落ち着いた学校生活を過ごすことが出来たのではないかと思います。今後も自立・自律して社会に出ることができますよう、規範意識や判断力をしっかりと育てていきたいと思います。

元気に気持ちのいいあいさつをする。



アンケートの結果、前期に比べて少しは「出来ている」が増えているのですが、今回も自由記述欄にご記入いただいた中に、「あいさつができない」というようなご意見が多くありました。前期の学校評価特集号でも取り上げていながら、子ども達がより「元気に気持ちのいいあいさつをする」ように変容させていくことができませんでした。

あいさつはお互いが心を通わせるもので決して無理強いするものではありませんが、「恥ずかしいから大きな声が出ない」ではなく「あいさつをしないのは恥ずかしい」と考え、いつでも気持ちよくあいさつをし、人と心を通わせる子ども達を育てていきたいと思います。今後も全校での取組を考えて進めていきたいと思いますが、ご家庭の方でもご協力をお願いいたします。



6年生が全員リーダーとなる「なかよしグループ」の取組を始めて3年経ちました。遠足などの大きな行事だけでなく、「なかよし集会」での話し合いや、毎月1回の「すいすいなかよし遊び」などの積み重ねによって、しっかり出来たという実感があり、どの項目よりも肯定的な回答が多くなっているのだと思います。

つい先日の「6年生を送る会」でも、1年生から5年生までみんなが、心をこめた出し物で「今までありがとう。ご卒業おめでとう。」の思いを伝え、「自分のリーダー」にみんなで丁寧に作ったメッセージカードを送りました。その気持ちはきっと6年生にも届いたことだと思います。そして、5年生が「次は自分達の番だ！」と自覚を高め、しっかりとまとまって頑張っているのも大変うれしいことです。今後高学年の人數が少なくなる時期にも、グループ編成の仕方をしっかりと見て取組を続け、高学年が責任を持って役割を果たすとともに優しい態度でお手本となり、低学年はルールやマナーを身につけて仲良く協力し、全校の児童が学年を越えて仲良く助け合えることを紫明校の良き伝統にしていきたいと思います。

この他のほとんどの項目では、前期の結果とあまり大きな変化がなく、後期の方が「よく出来ている」「大体出来ている」の割合が少し増えました。このことは、全体として落ち着いた学校生活を過ごし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育むための取組が、およそできていたからだと思います。

しかし、「紫明校の子ども達に、こんな力をつけたい」「全校で力を合わせて取り組み、子どもたちの力や意識・態度はこんなふうに育ってきた」と言えるようなことが足りなかった、保護者の皆様には分かりにくかったのではないかと反省しています。

これまでアンケートの項目に取り上げてきたことは、どれも大切で、これはなくしてもいいというような内容は何もありません。けれども、来年度からは紫明校の子ども達のよさをより多く引き出して伸ばし、苦手な部分を苦手でなくしていくための、特に力を注いでいく取組を考え、教職員が一致団結して取り組み、「すべての児童がより生き生きと学校生活を楽しみながら大きく力をのばしていく」ことができるようにしていきたいと思います。

保護者自由記述欄にご記入いただいたことを大体のテーマでまとめご紹介します。

(同様のご意見は、一つにまとめさせていただきました。)

#### 【学校の取組全般に関して】

- 学校の授業や行事を通して、先生や友達との絆や信頼を深め、宿題をやりぬく力や先生や友達を大切にする心が、特に成長した。
- 昔と比べて文章を書くことがとても少なくなっているように思う。自分の考えを文章にまとめることはとても大切なこと。書くことによって自分が何を考えているのかを再確認することもできる。書くこと・作文の指導をさらに充実させてほしい。
- 日ごろの学習や、様々な取組をして頂く中で、子どもは予想以上に周りの大人や友達の言動をしっかりと観察していて、親も子どもから学ぶこと、考えることも多い。子どもにとって学校が楽しく有意義な場所であったことを何よりうれしく思う。
- 読書感想文を書く機会をもっと持てもらえたうれしい。
- 道徳で低学年でも問題提起まで進めてほしい。子ども同士で意見を出させるまでくらいはしてもよいのでは。
- 曖昧な説明ではなく、的確な説明をした上で注意をしてほしい。
- 児童の間は、基本的な生活習慣を身につけること、そして、友達との楽しい関わりや協調関係が築けることが、今後成長して社会の一員となるに当たって重要なことだと思う。毎日楽しく学校生活を送っている様子を見て、見守りや指導に感謝する。

#### 【行事や集会等について】

- 大縄大会やマラソンは、クラス一体となって勢いもやる気も感じられてよい。
- 児童会朝会で高学年の児童が、各委員会の役割で伝えたいことを劇を演じ教えてくれた。大切な礼儀を高学年から学ぶことは、インパクトがあるらしい。
- 運動会や大縄大会など学校行事でリーダーシップをとり、生き生きと活動する6年生にとても感動した。子どもも「6年生はすごい！」と尊敬し、本当にいい見本として下の学年を引っ張ってくれている。



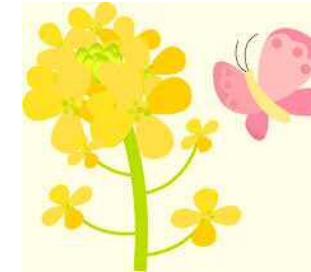
#### 【あいさつに関して】

- 朝のあいさつ運動に積極的に参加しているが、目を見て元気にあいさつをしてくれる子はあまりいないのが残念。
- 元気にあいさつができるようにと、親はしていますが、子どもは恥ずかしいのか、なかなか言葉にできない。
- あいさつをしているというが、声が小さくしたかしていないかよく分からぬ時がある。大きい声で元気よくあいさつするよう毎日促している。
- 低学年の子ほどあいさつが返ってこないので残念。家に遊びに来る子でもあいさつの無い子もいる。

- 小学校生活にも慣れてきて、一日の流れや生活習慣が身に付いてきたと感じる一方で、慣れからか  
　　あいさつがおろそかになったり、友達とおやつを食べ散らかしたり、という姿もある。みんなが気  
　　持ちよく過ごせるようにこれからも声かけや見守りをしたい。
- 5年ぐらい前に比べ、登校時に声かけ当番で立っていても“あいさつ”をする子が激減した。こち  
　　らが声をかけてもあいさつを返さない子が多いことは問題だと思う。
- 我が子は大きな声であいさつできないのが悩みの種。意識させることは家庭で続けていきたい。
- 元気なあいさつがなかなかできない。学年が上がるにつれて難しくなっている。あいさつも読書も、  
　　親が見本を見せてていきたい。

#### 【紫明タイム・聞く・話すに関する】

- 紫明タイムでは話を聞く側の児童の多くが質問に手を挙げ、それぞ  
　　れの思いを伝えている取組がとても良い。
- 紫明タイムはとても良い取組だと思う。話すのに時間がかかる時、  
　　ゆっくり待ってあげるところも良かった。
- 日直のスピーチは、自分で考える力と、人に伝える力がつくと思う  
　　ので、学年が上がってもしてほしい。



#### 【サンサンさわやかウィークについて】

- サンサンさわやかウィークは子どもの意識づけになるので、とても良い取組だと思う。
- サンサンさわやかウィークをその“ウィーク”だけではなく、毎月チェックするようにしていい  
　　のではないかと思う。

#### 【なかよしグループ（たてわり活動）】

- 人見知りが激しく、たてわりグループでの活動を負担に思っていたようだが、最高学年となり、リ  
　　ーダーとしての自覚もできたのか、以前より嫌がらず活動し、積極性も出てきたように思う。中学  
　　校に進学しても忘れず成長していってほしい。
- なかよしグループの活動があることで、自分のことだけをするのではなく、周りのことにも気を配  
　　るなど、小さな社会で成長できる場を与えて頂けている。
- たてわりのなかよしグループでの活動は素晴らしいと思う。もっと活動の機会を増やすとともに、  
　　半年くらいでグループ替えをして、いろんな人と交流できると、なお良いのではないかと思う。
- たてわりグループでの活動が、積極的になれば難しいようだ。いつも一緒にいる同学年の友達だけ  
　　でなくい学年のグループの中でも、自分の意見を出したり楽しく話し合えたり出来るようになって  
　　ほしいと願っている。
- 交流学習やなかよしグループで、ひまわり学級の児童も一緒に活動し、お互いに影響し合うことが  
　　できている。
- 少人数である特性を生かしたたてわり活動、特に6年生全員がリーダーになる経験や、他学年に知  
　　り合い（友達）が出来ることは、非常に良い取組だと思う。
- 児童数が少ないおかげか、近所を歩いている子ども同士が顔や名前を知っていることが多いので安  
　　心感がある。（たてわりの活動の成果だと思う。）

#### 《家庭での取組や工夫》

- 一人読書をすすめていたが、何歳になっても読み聞かせは「心の栄養」としてこれから生きていく  
　　ための土台になると知り、最近はなるべく寝る前に時間を作り、絵本を読んでいる。
- 日頃より読書に親しめる環境にし、何か疑問を持った時に図書館でそれに関する本を選んでおいた  
　　りもしている。
- 早寝・早起きをして、なるべく規則正しい生活が出来るように心がけている。
- 苦手なこともやり方を工夫して、違うアプローチをするようにすることで、楽しさを見つけるよう  
　　にしている。
- あまり大人のペースで急がせないように子どものペースを見ながら次のことを伝える。
- 学校での一日の様子を、夕食の時に話したりして、子どもの様子を観察している。
- 「自分のことは自分でする」を実行させている。「できない」と初めから言わずに頑張って行うこ  
　　とが大事だと教えてている。
- 人にしてもらって嬉しいことはしてあげよう、自分がされてイヤなことはやめよう。
- 家ではお手伝いカードを作り、積極的に家事を手伝ってもらえるよう工夫している。
- 根気強くやりぬく力が弱い。勉強、運動等、すべての面において、すぐに投げ出すのではなく、根  
　　気強く取り組めばできるということを知ってもらいたいので、励ましながらできる限り一緒に取り  
　　組むようにしている。
- ぐずぐず言う時も、ふんふんそうかあと共感しながら聞いていると納得するようで、落ち着いて自  
　　分がいいと思うことを選べる。
- 毎日寝るまでに学校でのこと、今日一番楽しかったこと、嬉しかったことを一つ尋ね、他のきょう  
　　だいと一緒に聞くようにしている。
- 読書推進のため、一冊読破ごとのポイント制を採用し読書量増えつつある。
- 本を読ませる。家族で話す時間を持つ。
- 「自分のことは自分でする」「約束・ルールは守る」などを心掛けている。
- 宿題などやらなくてはいけないことは、いつやるか本人に聞いて、自主的にやるように仕向けてい  
　　る。
- 毎日やるべき課題を自分で決め、例えば一日に算数と国語の課題プリントを1枚ずつやること、次  
　　の日に出来なければ前日にまとめてやる、または後日に2枚するというルールにして取り組んでい  
　　る。知らない単語は辞書で調べるように習慣づけている。
- なるべく本を読むように、興味のあるキャラクターが科学やことわざを説明し  
　　ている本をいつも持たせるようにしている。
- ゲーム類は一切家庭では禁止している。TVを見る時間が長くなるので、何と  
　　か短くしようと親子で努力している。
- お互いが話しやすい環境を作る。
- なるべく会話をしてコミュニケーションをとっている。
- 生活リズム、部屋の片づけなど、基本的な生活のリズムが整うように心がけている。



- ニュースなどを見ながら、それぞれの考えを言うようにしている。社会情勢を考える機会にもなり、受け身だけにならない訓練にもなると思う。親の考えの押しつけにならないよう、先に子ども達に言わせるようにしている。
- 《親としての考え方や願い》
- 子どもには自分も人も大切にしてほしい。不当な言動を受けたら拒否して自分を守ることが、相手にとっても気付きになり双方にプラスだ。がんばってほしい。
- 学校の教材を見ていると、「友達の気持ちを考える」という分がとても多く、それ自体はとても大切なことだけれど、善悪・正邪・是否といった事柄まで気持ちの問題として解消されているような部分も見受けられ大変割り切れなさを感じる。
- 改善した方がいいところやなおした方がいいと思ったことを「～～したほうがよいんじゃないの？」と言っても、自分の意見も出てきて実行が難しい時がある。自分の意思・思いをしっかりと先生や友達に伝えられるようになってほしい。
- 何事にも「一生懸命」を心掛け取り組ませている。友達とのことは、相手の立場に立って気持ちを考えていたら絶対にきついことは言わないし、思いやりのある人になれるはず！と幼稚園時から言い聞かせてきた。
- 学年が上がるにつれて、自転車の乗り方など、少し心配になることも増えてきた。一人一人の違いを理解してきていると思うが、“好き”“嫌い”で判断していることも多くなってきていると思う。相手を大切にする気持ちをもっと教えていかなければ。
- ここ最近、自分でいろいろなこと（勉強であったり、体を動かすことであったり）が出来てきていると言っていた。本人にとって自信につながっていて、自分で気が付いたことが嬉しい。何事もやればできる、の精神でチャレンジして欲しい。
- 100円ショップで簡単に手軽に何でも手に入る世の中なので、それに流されないように、しっかりと物に対する考え方を持てるように…。それがすべてのことにつながると思い、大切にしている。
- 忙しい毎日を送っているのは誰でも同じ。いろいろなことに子を持つ親としての責任を果たしていくたい。学校でもそういうことの大切さを子供に対してどんどん語りかけてほしい。
- もう子どもでもなく大人でもない微妙な年齢。子どもなりに色々な事に一生懸命がんばっている。心配な部分もあるが、過干渉せず、目を配りながら見守っていきたい。男女仲が良い方だと思うので、このまま続いている。
- 人に流されず、意思表示がしっかりとできる人間であってほしい。個性豊かで、自立心と感受性を大切に生きてほしい。「理想」と「現実」のギャップに戸惑いつつも、信念を持って取り組んでいきたい。
- 忙しい毎日、家族がぶつかり合ってしまった時などは、自分も人も大切にすることだけはしっかりと考えて、いい加減にしない。それが友達とのつきあいや社会との向き合い方につながるよう。
- まだまだ自分で考えて行動をするということがあまり出来ていないので、もう少し自分の判断で動けるようになったらいいなと思います。



## 学校運営協議会ニュース

3月8日(水)午後7時より、学校運営協議会理事の皆様にお集まりいただき、平成28年度第2回学校運営協議会理事会を実施いたしました。



後期の紫明小学校の取組と児童の様子について学校から報告し、保護者の皆様から頂いた学校評価、児童の学校生活ふり返りアンケート、教職員の自己評価の結果をまとめた資料をもとに、今後取り組んでいくべきことについて話し合いました。簡単なまとめとなりますがご報告いたします。

「なかよしグループ」の取組は、3年間続けてよい形で実を結んでいる。色々な行事・集会・遊びを通して仲良くなり、協力し合えたという実感があるから、どの項目よりも肯定的な回答の割合が高く、保護者の自由記述でも評価が高い。小規模な学校でいろいろな人間関係、社会をつくり、同じ学年の友達とだけでは出来ないことを経験することができる。一年間を通して積み重ねてきてその最後には5年生が「次は自分達の番だ」と自覚して意欲を高めていくことは素晴らしい。

巣立ちのお茶会での子ども達は、礼儀正しくその場にあるべき姿をしっかりと考えて行動できていた。地域の方の支えもあり、色々な文化を学び経験できている。

評価をつけなくてはならないとき、誰しも大変悩むことが多い。「よく出来ている」か「大体出来ている」か、どちらに回答するかは大変主観的なものであるから、数%の数字の違いはあまり気にしないでいいのではないか。ただ、全体の回答から傾向をつかむことが出来る。その点で、紫明小学校の取組はよいものであり、今後もこのままの指導方針で続けていってほしい。

「学校評価の趣旨が分からぬ」「学校の様子が分からぬ」等の記述があるのは、もっともっと保護者の方々を呼び込むことが出来ればいいのだが、多くの方は仕事があり限られた時間で無理がある。学校の取組は、それぞれの事がらについてやっているが、全体としての方向性やつながり、特にねらいとしていることが分かりにくいのではないか。たとえば、「進んで読書をして本に親しみ、目的に応じた読書が出来る」ようにするために、学校がどのような取組をしているのか伝わっていない。読書の仕方や読書感想文の書き方などについて、必要があれば協力する。

それぞれの取組をつなげて「紫明校としての取組」を、意図をもって進め、それを広報して行くことが大切だ。前期と後期を比較するのであれば、前期のどの部分を問題ととらえ、何をどのように変えていきたいと思ったか、そのために何をどのように取り組んだかが分かるように伝えていかなければならない。どの項目も大事だが、全部にこだわらなくてもいいのではないか。中身を大切にシンプルな方法にして、何をねらいとしているのかを伝えていけばいい。

子ども達の成長に学力や体力はもちろん大切だが、「美しいものにふれ、自然の中で季節の移ろいを感じる」ような心の豊かさも大事にしてほしい。それははかれないものではあるが、指導者側の意識や子どもへの声のかけ方で変わるもの。大切にしてほしい。

限られた紙面で全てをお伝えすることはできませんが、上記のような貴重なご意見をたくさん頂戴しました。紫明小学校は、保護者の皆様、地域の皆様にいつも温かく支えていただき、本当に感謝しております。これからも、子ども達がより「賢く、優しく、たくましく、心豊かに」成長していくことが出来ますように、教職員も一致団結して真摯に取り組んでまいります。今後とも温かいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

